

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	bam		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～ 令和8年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムが充実している。 運動に関する器具の種類が豊富。	保育園、幼稚園での日々の生活や行事へスムーズに参加できるよう運動能力の基礎ができる時期(3～8歳)この成長期に必要な運動・バランス・リズム感を育む支援を行っている。 日頃の頑張りを発表する場として運動会やクリスマス会などの大きなイベントを開催している。	来年度からは、小学校へ進学する児童へ向けて学習(宿題)の支援も行う。
2	保護者と定期的に児童・家庭の様子について情報交換を行っている。	連絡帳に活動の様子を伝える。送迎時にお話したり、画像や動画を送ったり、時には親子参観や親睦会の開催を行っている。児童の様子がわかるよう、また、保護者の相談など迅速な対応ができるよう心掛けている。	親子参加型イベントの機会を増やす。
3	職員の年齢が20代、30代、40代、50代、70代と幅広くアットホームな環境大切にしている。	「みんなが楽しむお家」をテーマに、子どもが子どもらしく成長するよう職員の言葉使いや接し方などに注意して児童に対して暖かく支援している。	職員間で児童の特性を理解を深め質の高い支援につなげる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっていない。	活動部屋を広く活かすため、また、集団活動に慣れるため個別の部屋は設けず、パーティションで区切るスペースとなっている。	活動部屋の改装を検討する。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営は行えていない。	保護者、きょうだい参加型イベントは開催するが、地域住民となると保険等の保障問題という懸念がある。	安全に住民を迎え入れる環境を整えること。また、野外活動の参加を募る。
3			